

平成28年度博物館施設評価集計シート（最終）

施設名 さきたま史跡の博物館

1. 数値目標による評価

(1) 全館共通項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達
昨年度2～3月分の数字を足して算出	達成見込

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	119,960	人	達成	昨年度実績	
				125,450	人			
2	利用状況	常設展観覧者	年間常設展観覧者数	115,290	人	達成	昨年度実績 昨年度実績比7,083人(5.7%)増	
				122,370	人			
3	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	750	件	未達	昨年度実績	
				552	件			
4	利用状況	経営努力	観覧料および事業等収入額	11,602,200	円	達成	当該年度予算計上額 昨年度実績比1,138,460円(9.8%)増	
				12,740,660	円			

(2) 館別独自項目

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	達成
目標値の達成度(100%未満)	未達

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	企画展・テーマ展の入場者数	48,689	人	達成	昨年度実績	
				55,776	人			
2	利用状況	出前授業	出前授業の実施校数	18	校	達成	昨年度実績	
				18	校			
3	利用状況	団体利用	学校団体の博物館利用校数	224	校	達成	平成23・24・27年度実績の平均値	
				242	校			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	982	点	未達	昨年度実績 対象変更による減(備品としての定期点検)	
				539	点			
5	満足度	常置アンケート	アンケートでの展示満足度	93	%	達成	昨年度実績	
				97	%			
6	満足度	講座等アンケート	アンケートでの講座等受講者満足度	95	%	達成	昨年度実績	
				95	%			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	①鉄砲山古墳・二子山古墳の発掘と、稲荷山古墳の史跡整備 ②埼玉古墳群総括報告書刊行に向けた準備 ③収蔵資料等の保存と公開・活用 ④テーマ展「新収蔵品展～長瀬総合博物館からの寄贈資料～」、最新出土品展「地中からのメッセージ」、企画展「埼玉の古墳 1－比企・入間－」、開催 ⑤さきたま講座をはじめとする生涯学習事業の実施 ⑥出前授業「なるほど古墳時代」と、自由研究相談窓口「調べてわかる埼玉古墳群」実施 ⑦まが玉づくりをはじめとする各種体験事業の実施 ⑧利用促進のための広報活動
事業の実施状況と過程	①鉄砲山古墳発掘調査実施中。稲荷山古墳の墳頂部外構工事中 ②埼玉古墳群総括報告書刊行委員会を開催。原稿執筆作業実施中 ③国宝武蔵埼玉稲荷山古墳出土品の公開 ④テーマ展19,620人、最新出土品展15,310人、企画展15,636人（開催順） ⑤さきたま講座8回実施694人 ⑥出前授業24校37学級1,055人、自由研究相談窓口40人 ⑦まがたまセット販売個数11,849個（昨年度年間10,947個） ⑧「まが玉づくりと国宝見学」チラシ配布（県内小学6年対象、7月）
事業の成果	①鉄砲山古墳発掘調査終了。稲荷山古墳の墳頂部外構工事が完成し供用開始。 ②埼玉古墳群総括報告書の原稿執筆終了。平成29年度に完工予定。 ③国宝武蔵埼玉稲荷山古墳出土品を中心に学芸員およびボランティアが解説。 ④テーマ展、最新出土展、企画展ともに観覧者が前年比15%増。 ⑤さきたま講座10回実施902人 ⑥出前授業24校37学級1,056人、自由研究相談窓口40人 ⑦まが玉セット販売個数12,629個（昨年度年間10,947個） ⑧「まが玉づくりと国宝見学」チラシ配布（県内小学6年対象、7月）

基礎データ

職員数 (学芸員数)	24人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	35,488,000円	職員一人あたりの県民人口	30.3万人
収蔵資料総点数 (H28.3末現在)	2,221箱	事業経費 (上記の内数)	18,948,000円	利用者一人あたりのコスト (平成27年度)	308円
平成27年度 収集資料点数	21箱	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	11,602,200円 7,514,000円	県民人口に対する利用者割合 (平成27年度)	1.58%

(注)平成28年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,268,405人である

2. 全館共通項目チェックリスト

さきたま史跡の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか	A	H18保存整備計画策定
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか	A	同上に基づく
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか	A	S43以来継続調査
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか	A	資料調査時に適宜収集
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか	A	整理・報告書作成
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか	C	評価委員会設置検討中
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか	A	収蔵資料管理要綱
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか	A	同上
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか	A	同上
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか	A	忌避剤散布 収蔵庫清掃
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要綱
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	A	学会会議等で周知
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	A	東文研研修参加
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	A	温湿度管理
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	A	収蔵庫定期清掃
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	A	モニタリング実施
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	A	忌避剤散布 収蔵庫清掃
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	データロガー利用
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	A	適正照明器具の使用
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	収蔵庫定期清掃時実施
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	A	収蔵庫定期清掃時実施
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	A	3か年計画で実施
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の更新

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭	資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	検索システム利用
	⑮	収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項
	⑯	収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	同上
	⑰	収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	①	収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	博物館条例管理規則
	②	収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	HPに公開
	③	収蔵資料を展示に活用しているか	A	適宜活用
	④	収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数 209点
	⑤	収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	A	利用点数 1,108点
	⑥	資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	A	HP情報更新
	⑦	収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	主要資料を公開
常設展示	①	資料の展示環境を適切に管理しているか	A	温湿度管理、忌避剤散布
	②	展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	A	内容・文字量・フォントに配慮
	③	展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	A	監視・警備員配置
	④	展示情報を適宜修正・更新しているか	A	適宜実施
	⑤	展示設備等を適宜点検しているか	A	開館中適宜巡視実施
	⑥	展示ガイド等を作成しているか	A	ガイドブック刊行
	⑦	解説リーフレット等を作成しているか	A	6種類配架
	⑧	展示解説等を適宜実施しているか	A	展示解説等実施
	⑨	観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	アンケートの集計・分析
	⑩	アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	A	分析後対応
	⑪	県民に対し展示情報を適宜発信しているか	A	HP公開・催事案内配布
学習支援事業	①	事業情報を利用者に広く発信しているか	A	HP/彩の国だより等
	②	多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	A	電話・電子申請・来館時等
	③	多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	A	子供・一般対象
	④	参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティア配置

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤	事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	説明・注意喚起・保険加入
	⑥	参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	A	参加者アンケート実施
	⑦	アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	A	アンケートの分析
	⑧	来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	体験工房・情報コーナー
	⑨	学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	A	学芸員実習・インターンシップ
県民との連携・協働	①	ボランティア制度を導入しているか	A	体験・解説・環境ボランティア
	②	ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア活動要領
	③	ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	A	ボランティア設置要綱
	④	ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	A	研修5回実施
	⑤	ボランティアの活動成果が公開されているか	A	HP・館報に掲載
	⑥	友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	A	秋祭りに地元NPO参加
	⑦	地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	A	さきたま火祭り・鉄剣マラソン
調査研究活動	①	調査研究テーマを定めているか	A	年度当初にテーマ設定
	②	調査研究のための予算措置等に努力しているか	B	紀要印刷費・調査旅費
	③	調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	A	研修会等参加
	④	収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	研究会等参加
	⑤	資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	A	研修会等参加
	⑥	地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	A	適宜実施
	⑦	学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	A	研究会等参加
	⑧	他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	A	古代歴史文化協議会
	⑨	調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	A	講座・企画展・解説・紀要等
	⑩	調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	A	遺跡報告会
施設・アメニティー	①	施設の維持・改善についての計画を策定しているか	A	優先順位と予算で実施
	②	展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	A	重り・テグス等で転落防止
	③	危機管理マニュアルを整備しているか	A	危機管理マニュアル
	④	防災・救急訓練等を定期的に行っているか	A	2月実施予定
	⑤	休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	B	館内休憩コーナーのみ
	⑥	レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	A	車いす4・ベビーカー1

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考	
施設・アメニティー	⑦	バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	A	施設・設備点検実施
	⑧	一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用8台
	⑨	手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	B	階段手すり設置済
	⑩	利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	A	ピクトサインを活用
	⑪	館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	A	入館のしおり英語版
	⑫	利用実態に応じて開館時間を設定しているか	A	夏期開館時間延長
	⑬	便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	A	大型バス・普通車295台
施設の活用	①	施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	A	管理規則
	②	施設利用のための情報を公開しているか	A	HPに利用案内
	③	施設を一般の利用に提供しているか	A	講堂・レストハウス
	④	施設を学校団体等の利用に提供しているか	A	講堂・レストハウス
	⑤	施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	A	さきたま秋祭り等
	⑥	地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	A	行田市郷土博物館等

3. 館別独自項目チェックリスト

さきたま史跡の博物館

評価基準

完了または順調に進捗していて問題がない	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
史跡整備事業の実施と活用	① 外部からの指導・助言を得ているか。	A	整備協議会
	② 全体的な整備計画を策定しているか。	A	H18基本計画策定
	③ 情勢の変化に応じて、適宜見直しを図っているか。	A	整備協議会
	④ 地元との定期的な意見交換を図っているか。	A	古墳公園づくり連絡会議
	⑤ 担当職員を史跡関連の研修に参加させているか。	A	遺跡環境整備会議
	⑥ 市町村等への整備研修会を開催し、技術や手法の普及を図っているか。	C	研修会内容を見直し中
	⑦ 調査の現地見学会を実施しているか。	C	安全確保が難しいため中止
	⑧ 史跡や整備に関する講座・講演会を行っているか。	A	考古学講座 遺跡査報告会
	⑨ 整備事業の成果を各媒体を通じて広報しているか。	A	報道発表、当館H. P
	⑩ 整備事業の成果を展示等を通じて公表しているか。	A	最新出土品展
公園整備と利活用	① 全体的な整備計画を策定しているか。	A	県土整備部策定
	② 公園利用についての諸規定があるか。	A	古墳公園利用規定
	③ 公園が地域に利・活用されているか。	A	さきたま火祭り等
	④ 外部に利・活用を呼び掛けているか。	A	観光情報誌等 情報提供
	⑤ 担当職員を公園に関連する研修に参加させているか。	A	遺跡環境整備会議
考古体験事業の実施	① 考古の専門館としての体験メニューを複数用意しているか。	A	まが玉づくり等9種
	② 安全に配慮しているか。	A	説明時に注意喚起等
	③ アンケートを実施して、参加者の意向を把握しているか。	A	事業ごとに実施
	④ 適宜改善を図っているか。	A	適宜図っている
	⑤ 外部からの出張事業の要請にもこたえているか。	A	出前授業実施
	⑥ 様々な媒体を通じて情報を発信しているか。	A	情報発信件数 214件
企画展示事業の実施	① 考古の専門館としての企画展を実施しているか。	A	企画展開催
	② 最新の考古資料を展示・公開しているか。	A	最新出土品展開催
	③ 学芸員による展示解説を行っているか。	A	企画展開催時 毎日曜日
	④ 展示図録・ポスター・リーフレット等の紙媒体を作成しているか。	A	展示ごとに作成
	⑤ 考古に関する講座・講演会・調査発表会等を開催しているか。	A	関連講座開催
	⑥ アンケートを実施して、見学者の意向を把握しているか。	A	常置アンケートに 項目設定
	⑦ 展示情報を様々な媒体を通じて発信しているか。	A	情報発信件数 52件

平成28年度 博物館施設 総合評価

施設名 さきたま史跡の博物館

		達成	未達
全館共通	数値目標による評価	3	1
各館独自	数値目標による評価	5	1

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	86	3	1
各館独自	チェックリストによる評価	26	0	2

自己評価総括

評価	(1)-1・2・4 ともに昨年度比10%前後の伸びで、目標達成。 (1)-3 効果を検証し整理したため前半は減少したが、新たな広報媒体の開発で後半は倍増。 (2)-1～3 目標達成。好調を継続させたい。 (2)-2 学校教育への効果も大きく、達成は評価できる。 (2)-4 対象を変更したための減。来年度は目標を変更設定する必要がある。 (2)-5 比較的高い満足度を得ることができた。 (2)-6 例年同様高い満足度を得た。
課題	例年、下半期は入館者数が減少傾向を示す。好調の維持が課題である。
対応の方向	イベントの効果的広報等を積極的に行い、集客の確保に努めたい。

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会 の意見	<p>1 企画展、テーマ展等については、内容を具体的な特定の問題に特化したほうがよい。専門的に掘り下げた部分がほしい。</p> <p>2 「史跡探訪」は、周辺の古墳を見るから、埼玉古墳群との関連性をクローズアップできるようにテーマ性を持たせたほうがよい。埼玉古墳群の勢力と周辺勢力の関係性などを比較するのは面白いのでは。</p> <p>3 「埼玉古墳群の成立」から終焉過程の中で、テーマを設定してはどうか。埼玉古墳群周辺に古墳終末期の大型前方後円墳が作られる意味を権力の周辺への移行の点から考えてみてほしい。</p> <p>4 古墳群の案内の際に、成立の背景を強調したほうがよい。古墳時代前期から中期前半の古墳が作られていない場所に突然稲荷山古墳が作られることは、北武蔵の中期古墳を考える中で大きな意味を持っている。この点をテーマとした企画がほしい。</p> <p>5 古墳群を背景とした勢力の、対立構図の特色づけもあるとよい。「武蔵国造の乱」の背景に迫る展示がほしい。</p> <p>6 企画展等のスケジュールが過密なのでは。</p> <p>7 広報に、ソーシャルネットワークの活用を図ってはどうか。</p> <p>8 右肩上がりの目標設定では、限界が来るのでは。</p>
------------------	---

2. 全館共通項目に係る評価

評価 小委員 の意見	<ul style="list-style-type: none">・効果的な広報のため、展覧会の内容に合わせたポイントを絞った広報があってもよい。・発掘調査現地見学会は、警備と安全に配慮して開催してほしい。・「数値目標による評価」により、県民からの広い認知と興味を得ていると判断できる。・「全館共通項目リスト」では、博物館に求められる諸使命を十分に遂行していると判断できる。・「施設・アメニティー」に係る点で、来館者の多様性を尊重する上で重要であり、充実させてほしい。・「資料の収集」「調査研究活動」のさらなる充実が期待される。ただし、調査研究のための予算措置は、学芸員の繁忙化をもたらす場合もある。企画展等の運営に影響しないよう配慮が必要。・小中学校へのイベントチラシの配布は効果的、配布地域の拡大も考えるべきである。・地元の高校生によるボランティアは学生にとって貴重な体験である。利用者から見て次世代への伝承がされていると感じた。
------------------	---